

# まんまんちゃん ニュース



株式会社高田  
大聖寺永町56  
☎ 72-1275  
第53号

## ☆みきおちゃん ご挨拶 ～春の人形供養祭にませて～☆

私たちは皆、誰かのために祈り、また誰かに祈られながら、この大きなつながりの中で生かされています。お人形もまた、私たちの傍でその慈しみを受け止め、時には励まし、癒してくれた大切な存在です。当社の人形供養祭を通じて、万物に宿る命の尊さと、日々の何気ない幸せへの感謝を深めるひと時となれば幸いです。

## ☆タカダのスタッフ紹介☆

縁あって、一昨年入社しました福島県出身の星加優一（ほしかゆういち）さんをご紹介します。

Q. お葬儀の業界に入った動機はなんですか？

A. お葬儀の仕事に携わる以前、私は高齢者向けの配食サービスを自営で行っていました。毎日お弁当を届ける中で、一人ひとりの表情や体調を確認し、玄関先で交わす何気ない会話や笑顔に、私自身が励まされる思いでした。しかし、サービスを利用しなくなる理由の多くは、施設への入所もありましたが、多くがご逝去でした。「もうお弁当はいりません」とご家族の方から告げられる瞬間、その方との日々がふと途切れてしまう寂しさを、幾度も感じてきました。次第に私は、その「最後の瞬間」に少しでも寄り添い、ご家族のお役に立ちたいと願うようになりま

した。  
『お食事を届ける立場から、ご家族が新たな一歩を踏み出すための支えになれる仕事へ』  
その思いが、私をお葬儀業界へと導きました。お葬儀を終えたご家族が「丸ごと」落ち着きを取り戻され、穏やかな表情や笑顔を見せてくださったとき、その瞬間に立ち会えることが、私の仕事の大きな喜びであり、これからもこの道を歩み続けたいと思える理由になっています。

Q. 仕事をしているうえで大切にしていることは何ですか？

A. お葬儀の仕事に携わるうえで、私が何より大切にしているのは、ご家族が望まれる「お別れのカタチ」を真摯にくみ取るよう努めることです。お葬儀は、ご家族にとって一度きりの最後の時間です。そのひとときを悔いなく過ごしていただけるよう、立ち居振る舞いの一つひとつに心を込めています。また、お話を伺う際には、故人様がどのような人生を歩んでこられたのか、どんな思い出を大切にされていたのか、ご家族の語られる言葉に丁寧に耳を傾けるように心がけています。その方が辿ってこられた人生やご家族だからこそ知るエピソードを伺うことは、私にとって儀式づくりの核となる大切な時間です。

Q. 故郷のいいところを教えてください。

A. 私のふるさとである福島県郡山市は、「中通りの要」と呼ばれるだけあって、街の便利さと自然の豊かさか心地よく共存する場所です。郡山の人々は、素朴であたたかく、控えめながらも芯のある人柄がタタいように感じます。困っている人がいれば自然と言葉をかけ、相手を気遣うことを当たり前のように受け継いできた土地柄です。名物のお菓子は「ママドール」ですのでお立ち寄りの際は是非ご賞味ください。また、音楽都市としての一面や、季節ごとに変わる自然、食の豊かさも郡山の恵みです。小さい頃に耳にしたブラスバンドの音色や、開成山公園の桜、郡山の穏やかな空気は、今でも私の心の支えとなっています。郡山で育ったからこそ、「人の気持ちを大切にやる」という価値観が自然と身に付いたと感じています。その原点が、いまのお葬儀の仕事につながっているのかもしれない。

Q. 皆さまへメッセージをお願いします。

A. お葬儀の仕事は、人生の一区切りに寄り添い、ご家族が新たな一歩を踏み出すお手伝いをする、かけがえのない役割だと感じています。どのご家庭にも、それぞれの思い出があります。だからこそ私は、お一人おひとりのお声を丁寧に伺い、そのご家族らしい「たったひとつのお別れの形」を一緒につくっていきける存在でありたいと思っています。これからも、郡山の地で育った者としての素朴さと温かさを大切に、そして一人の人間としての誠実さを軸に、皆さまに安心してお任せいただける葬祭サービスを追究し続けたいです。



# タカダの終活塾・川柳コンテストのご報告

～皆さまご参加ありがとうございました！～

昨年11月、相続手続き支援センター福井の加藤豪氏をお迎えし、終活と相続の講演をしていただきました。相続への不安が少しでも解消できましたら幸いです。



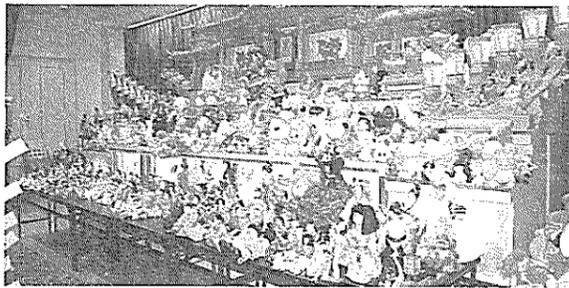
2025セレモニー会館タカダ 川柳コンテスト 入選作品発表！

「思い出の曲」をテーマに川柳を募集しましたところ、全国から過去最多の131点ものご応募をいただきました。皆さまありがとうございました。なお入賞者は右の通りです。おめでとうございます！

最優秀賞	秋桜の 歌を聴くたび 母想う	ベトナム ヤマボウシ
優秀賞	耳元で 唱歌をかける ICU	ベトナム のんちゃん
入賞作品	母の背の 特等席で 赤とんぼ	ベトナム マコッチャン
入賞作品	嫁ぐ朝 父の歌いし 祝い酒	ベトナム 飛行機雲
入賞作品	手の平を かざして見れば シワだらけ	ベトナム 緑翠

## お知らせ

令和8年5月4日(月・祝)に人形供養祭を開催いたします！



長年大切にされてきた人形やぬいぐるみを、感謝の気持ちとともに、心を込めてご供養いたします。処分するのは気が引ける、そんなお気持ちに寄り添う場です。どなたでもお気軽にお越しください。ゴールデン・ウィーク前に事前受付を開始いたします。詳細はタカダのホームページなどでお知らせする予定です。

## なるほど！「お墓じまい」の道～お墓じまい～

近年、テレビや雑誌で「終活」、特に「お墓じまい」について取り上げられることが増えていきます。実際にタカダにご相談されるお客様もいらっしゃいます。少子高齢化、都会に出た子どもにお墓の世話をさせるのはちょっと... など理由は様々です。今回は「お墓じまい」についての流れと注意点を紹介します。

- 1. ご親族はじめ周囲への相談**  
まずは、お墓じまいについてご家族・ご親族で相談しましょう。そしてその旨を菩提寺様に相談し、ご理解をいただきましょう。
  - 2. 墓地管理者への相談**  
管理者とは、加賀市中央霊園では市役所、お寺様の境内墓地ではお寺様です。必要な書類や手続きなどを確認しましょう。加賀市中央霊園を例にしますと、改葬許可申請書、墓地使用権返還届などが必要です。また、お墓じまいの際にはどの程度まで原状(更地)復帰する必要があるのかも確認します。
  - 3. 受け入れ先(改葬先)の決定**  
お骨の受け入れ先(改葬先)を決定します。民間の納骨施設か、お寺様の永代供養墓かなどご家族やご親族と相談しながら決めましょう。また、場合によっては受け入れ先の承諾書を墓地管理者に提出する必要があるため確認しておきます。
  - 4. お墓じまい施工業者に相談**  
現地を確認してもらい、見積もりをお願いしましょう。事前に墓地管理者に確認した原状(更地)復帰についても伝えます。
  - 5. 菩提寺様にお参りのお願い**  
お墓の撤去工事を行う前にお寺様にお参りをしてもらいます。ご先祖様への感謝の気持ちをもって一緒にお参りしましょう。
  - 6. お墓じまいの工事**  
事前にお骨の収まった骨壺を取り出しておくのか、工事の時に取り出すのか、施工業者にあらかじめ確認しておきましょう。
  - 7. 受け入れ先施設へ納骨**  
受け入れ先(改葬先)施設にお骨をご安置します。
- 以上がお墓じまいのおおよその流れと注意点です。お困りの事はタカダへご相談ください。



## 《編集後記》

今号は私どもの新たな仲間である星加さんをご紹介させていただきました。文字数が思いのほか多くなり、両面の誌面となりました。まいお葬儀をしたいという熱意の表れに、先輩である私も常に新人のような新たな気持ちと緊張感をもってお葬儀に臨まねばならないと感じました。お葬儀の会場で彼を見かけましたら、お声をかけてあげてください。また、今年のタカダの人形供養祭は、5月4日(月・祝)を予定しております。毎回終了直後から、「次はいつあるの？」とお問い合わせをいただいております。ありがたいことです。私どもは、お人形さんともよいお別れの時間となるよう努めてまいります。(しけ)

ニュースレターの感想やご質問などお気軽にご連絡ください！

家族葬タカダ

検索



タカダのInstagram公式アカウントです。



タカダのFacebook公式アカウントです。



タカダのLINE公式アカウントです。